

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

<若葉台小・中学校 教育目標>
 ◎学校力と地域力で
 ・健やかな体と豊かな心を育みます(徳・体)
 ・学ぶ力を育て、高めます(知)
 <若葉台中学校 教育目標>
 ・互いを生かし、共に支えあう生き方を育みます(公)
 ・自ら課題を持ち、考え、解決しようとする力を高めます(開)

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

<自分づくりに関する力>

具体化した資質・能力

地域から学び地域に貢献する姿勢 他者の考えや思いに対する受容性
 自己肯定感 自己有用感 主体性・積極性

中期取組目標

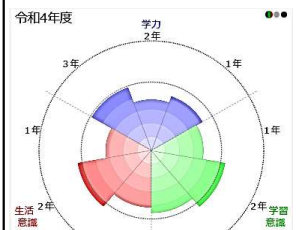
◎子ども一人ひとりを大切に、学びを通して自立をめざします。
 ○子どもが「わかる、できる」を実感し、「考える」授業を通して、思考力、判断力、表現力等の「学ぶ力」を育成します。
 ○人も自分も大切にできる人権尊重教育を推進し、相手の立場に立って考えられる「思いやり」の気持ちと共生、協働の態度を育成します。
 ○自治意識、自治能力を育てる主体的な生徒会活動を推進し、課題解決を図ろうとする力を育成します。
 ○多様な人と関わり、充実した体験活動や実践の中で、自己肯定感や自己有用感を醸成します。
 ○地域の教育力を生かして、地域からの学びと交流を図る中で、地域の中で成長し、社会に貢献できる子どもを育成します。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
学習指導 授業改善	①生徒が自ら問いを見いだし解決していく授業を通し、日常や社会の中で生きて働く力を育てる。 ②ChromebookなどのICT機器を活用し、思考力、判断力、表現力等の向上を図るとともに、個別最適・協動的な学びの場を提供する。 ③校内や小中合同での授業研究会を通し、全ての教員が授業改善に取り組み、生徒の資質・能力の育成を目指す。
担当	学習指導部

学力向上に関わる本校の状況

第1学年(現2年)は学習意識そのものが低く、学力的にも課題があるのが現状となっている。学力の内訳では、教科によっては知識・理解力が課題となっており、小学校時代からの積み残しが解消できていない状況にある。
 第2学年(現3年)は昨年度同様に各教科とも学習意識は高いものの、学力的には厳しい状況である。特に思考力が低い。話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたり、発表したりする機会が少なかったことも原因の一つと考えられる。
 昨年度はChromebookを積極的に活用し、生徒が授業に興味をもって取り組む姿が見られるようになった。さらに工夫した活用方法を考え、学力の向上を図りたい。



今年度の目標

「わかる、できる」を実感できる授業を目標に、生徒一人1台のChromebookを、日常的に授業で活用できるように研修を重ね、授業改善に取り組む。

目標を実現するための具体的行動プラン

・昨年と同様に授業改善週間をもうけ、各教科、授業におけるChromebookの活用方法を検討し、互いの授業を公開する。さらに、それをもとにした研修会を講師も招き実施することで、研鑽を深める。
 ・前期小中合同授業研究会により、学校関係者からの意見も参考に、さらに授業改善に努める。

・1学期に行った研修会をもとに、2学期以降は昨年度以上に授業の中でChromebookが活用できるように各教科とも検討し、実施していく。
 ・後期小中合同授業研究会において小学校の授業を参観し、中学校にいかせる取組を模索する。
 ・年度末に、今年度の授業改善に向けた取り組みを振り返り、次年度の計画を立てる。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
道徳教育 人権教育	①道徳科を要として、道徳教育や人権学習、平和学習を充実させ、思いやりをもち、よりよく生きる喜びを見いだす心を育てる。 ②校外学習や学校行事などを通して、生徒の達成感や自尊感情、自己肯定感を高めるとともに、他者との関わりの中で自他を大切にしている心情や態度を育てる。
担当	学習指導部

豊かな心に関わる本校の状況

本校の生徒の傾向として、生活意識・自己意識が比較的高く、とくに他者との関わりについては関心が高いように思われる。
 その一方で、「自分のことが好き」「自分には良いところがある」と感じている生徒はあまり多くない。
 全体として学習面、生活面などで自己肯定感の低さが課題となっている。

今年度の目標

道徳化を要として、学校行事に向けての取組なども通しながら、生徒の達成感や自尊感情、自己肯定感を高め、他者との関わりの中で自他を大切にしている心情や態度を育てる。

目標を実現するための具体的行動プラン

・各学級の道徳科の時間と、学校の教育活動全体を通しておこなう道徳教育との関連を図る。
 ・3年沖繩修学旅行、2年長野(戸狩)自然教室、1年横浜校外学習を実施する中で、平和学習や体験学習を通して、生徒の達成感や自尊感情を育てる。
 ・地域交流授業では、地域の方々との交流を深める中で、自己肯定感・自己有用感を高める。
 ・体育祭、合唱コンクール、職場体験・職業体験などの行事を通して、他者との関わりの中で自尊感情を育てる。
 ・道徳科の研究授業を通して、「道徳科の時間の授業力向上」を図る。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育 食育	①運動、食事、休養、睡眠等の重要性の理解と日常生活における実践を図り、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質、能力を育成する。 ②保健だより、保健委員会の活動等で生徒の実情に合った内容を取り上げること、自ら心身の健康を保持増進するための意欲と実践力を育
担当	保健体育科・保健指導部

健やかな体に関わる本校の状況

(1) 健やかな体に関わる生徒の実態
 ・落ち着いた生徒が多く、授業に真面目に取り組む雰囲気がある。
 ・地域にスイミングクラブがあり、水泳が得意な生徒が多い。苦手な種目に、意欲的に取り組む生徒が少ない。
 ・身体計測については、ここ数年、男女ともに身長、体重については、全国・横浜市平均より下回る結果であった。
 ・新体力テストについても、全体として、全国平均・横浜市平均より下回る結果となった。その中でも、走力の種目(50メートル走、持久走)について、差が大きいためにわかる。
 ・昼食は、お弁当を持つ生徒が大多数を占める。お弁当を持つことのない生徒は、給食を食べている。
 ・朝食を食べる生徒がほとんどである。
 ・昼休みにグラウンドで遊ぶ生徒が少ない。
 ・地域には、運動できる施設として、地区センターがある。その他、地域行事も盛んに行われ、ソフトボール大会、ソフトバレー大会、駅伝大会などが実施されている。
 ・保健室利用者は全体として少ないが、同じ生徒が繰り返し利用することが多い。

今年度の目標

運動に親しむことが、心身の健康増進につながることを理解させ、さらに人との結びつきを深めることに気づかせる。規則正しい生活習慣を確立するために、健康な食生活、休養、睡眠時間を改善するための資質、能力を育成する。

目標を実現するための具体的行動プラン

《体育科・保健体育科での取組による資質・能力の育成》
 ・運動の基礎的、基本的な知識・技能の習得。仲間と協力し、助け合い、励まし合いながら学ぶ力を高める。自己、他者の運動の動きについて、正しい理解のもとに動きの分析を正確に行い、取組も課題を明確にできる力を養う。
 ・健康・安全について、気を配り、環境を整えて運動を実践できるようにする。
 《横断的な取組による資質・能力の育成》
 ・家庭科・技術家庭科・道徳・総合的な学習の時間
 ・特別活動(保健指導・安全指導)
 ・身体計測・新体力テスト
 ・体育祭・部活動
 ・校外学習・自然教室・修学旅行
 ・昼食時間・食育

・1学期に実践したことについて、生徒に育成された資質、能力を分析し、2学期以降に着手することを検討し、実施できるようにする。
 <検討、実施について>
 ・全体として、育成を目指す具体化した資質・能力と関連付けた具体的な手立てについて。
 ・学年やクラスごとに具体的な手立てについて。
 ・教科ごとの具体的な手立てについて。
 ・教科外での具体的な手立てについて。
 ・年度末に、今年度の目標を踏まえて達成状況を確認し、次年度の目標、計画をたてる。